

～（車の話）なぜ「半ドア」があるのか？～

車の乗り降りの際によくやってしまうのが「半ドア」です。そのまま走り出すと現代の車は警告で気付く事になりますが、完全にロックする為にはもう一度停車し、ドアを開けて思い切り閉めなければなりません。これはなぜなのでしょう？ 素朴な疑問を記事にしてみました。

～安全装置としての「半ドア」～

半ドアの状態でも走行しても、すぐに「ドアが開く」という事はありませんが、この中途半端に閉まってしまう「半ドア」、意図して作られた機能だそうです。

そもそも半ドアは、ドアが完全には閉まっていない状態であり、目視でもわかる様になっています。しかし前述のように、すぐにドアが開かない状態になっています。

これは「安全性確保」の為に機構になっています。

ドアを完全にロックするにはある程度力が必要です。十分な力でドアを閉めず、そのまま走り出すケースは意外に多いそうで、もし走行中にドアが開いてしまえば、重大な事故に繋がりがねません。

したがって完全に閉まらなかった状態でも、それを想定してドアにフックがかかる構造とし、一次ロックをさせているのが半ドアの状態なのです。

また最近のライドドア付の車種には「オートクローザー」機能で、軽い力で閉めても電磁ロックで完全ドアが閉まる様に出来る車種も普及してきています。

～ドアだけではない「半ドア」～

半ドアというだけに、ドアの開閉を連想しますが、実は「トランク」にも半ドアが存在します。

またハッチバックモデルなどは、様々な荷物（時には大きな物）を積載する事がある場合、なんとかハッチが閉まったつもりでも「警告灯」が・・・なんて事もあると思います。

リアハッチやトランクにも半ドア機能がありますので、荷を大量に積んだような場合は警告灯が消えるまでしっかりとロックする必要があります。



～なぜ、ドアを閉めるのに力が必要なのか？～

ドアを完全にロックする為には、ある程度“力”を入れてドアを閉める必要があります。

これはなぜかと言うと、**車内の気密性を確保する為、ドア周辺に「ゴムパッキン」を使用している事**が挙げられます。

クルマの車内の気密性を高めるのは、空調管理や走行中の騒音低減など、様々な理由から必要になります。

しかし**気密性が高ければ高いほど、内外の気圧の関係で、半ドアになりやすい状況**にもなります。

ドイツ車の一部では、気密性からくる半ドア状態に対処するシステムとして**「空気を逃がすために窓が下がる機能」**が付いているものもあります。

またドアを急に閉めると、車内の気圧が変化しますので「耳」の保護にも繋がるといえます。

こうした機能の無いクルマでも、実は**少しだけ窓を開けてドアをしめると半ドアになりやすく、気圧の急変もない状況**を作ることが出来ます。



～半ドアは道交法違反になることも！？～

「道交法第71条第4号」によれば、“**乗降口のドアを閉じ、貨物の積載を確実に行う等当該車両等に乗車している者の転落又は積載している物の転落もしくは飛散を防ぐため必要な措置を講ずること**”とあります。

つまり、運転手は乗員と積載物が運転中、車外に落ちないように努めなければならないということで、**半ドアも走行中に開いてしまう危険性**があるため、遵守できなければ**“転落等防止措置義務違反”**に該当するそうです。

乗車ドアが開いたままなのは論外として「トランクを閉め忘れた」「荷物が多くて閉まらないから」という理由は通用しないことになります。

ただし、**トランクが閉まらない場合でも、違反にならない**こともあります。完全に閉まらなくても、そこから積載物が転落しない様にしてあげればいいのです。一般的な方法は、**トランクのドアをロープ等で固定**する方法で、タクシーなどで希に見られる方法です。

**「お持ちの土地や建物
評価してみませんか??」**

おかげさまでこのところ、
売物件が不足しております・・・

<http://maruhiro2103.co.jp>

私たちは、土地や建物の仲介のみではなく、
声かけ頂ければ、何でもお役に立てます！

～土地・建物のよろず屋～



マルヒロ不動産(株)

名古屋市中村区横前町109番地

TEL: 052-413-4628

